授業科目	認知症の理解Ⅰ	担当教員	宮下　史恵		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	認知症についての理解を深めるとともに、認知症の人の理解を深めていきます。				
到達目標	認知症とは何か、認知症をきたす様々な疾患について説明できることを目標とします。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 13　認知症の理解　第 2 版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 （参考図書）『実践パーソン・センタード・ケア　認知症をもつ人たちの支援のために』　水野裕　ワールドプランニング				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	定期試験 70%、レポート 20%、ミニテスト 10%とし判断します。
レポート	20	
小テスト	10	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項：テキスト、最近のニュース、自身の体験などをもとに、授業展開をします。DVD などの映像教材、グループディスカッションなどによりさらに理解を深めていきます。この授業は介護福祉士になるうえで、必ず身に付けたいスキルとなります。自ら学ぶ姿勢をもって、積極的に授業への参加を望みます。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション	本授業の進め方、キーワード、認知症からイメージするもの
2	認知症とは　①	認知症の特徴　脳のしくみ　初期の生活障害
3	認知症とは　②	脳を構成する細胞　脳の働き
4	認知症とは　③	脳の構造と症状の関係　せん妄、老化との関係
5	認知症の人の心理	パーソン・センタード・ケア　DVD 鑑賞
6	認知症のさまざまな症状①	中核症状の理解
7	認知症のさまざまな症状②	生活障害の理解
8	認知症のさまざまな症状③	BPSD の理解
9	認知症の検査	認知症の診断、原因疾患と症状・生活障害
10	認知症の原因疾患　①	アルツハイマー型認知症　血管性認知症
11	認知症の原因疾患　②	レビー小体型認知症　前頭側頭型認知症　他
12	認知症の予防	認知症の歴史、予防・危険因子
13	認知症のケア	認知症ケアの理念と視点
14	認知症の人の体験	認知症当事者の視点
15	まとめ	認知症の理解Ⅰを通して

授業科目	認知症の理解Ⅰ	担当教員 実務経験	宮下　史恵 有：■　　無：□	介護福祉士として社会福祉協議会に勤務
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護福祉実習Ⅰ	担当教員	髙橋　綾		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修・3単位	単位数	
授業形態		授業回数	80回	時間数	160時間
授業目的	１．様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを理解し、総合的に利用者の日常生活援助のできる能力を養う。 ２．専門職としての職業倫理を身につけ、保健・医療・福祉の連携、チームの中で実践する能力を養う。				
到達目標	令和6年度介護福祉実習要項参照				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習　第2版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『令和6年度介護福祉実習要項』　学校法人吉田学園専門学校北海道福祉・保育大学校				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	実習先評価及び学校評価を総合的に判断する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	100	

履修上の留意事項	介護実習を実践するためには、とりわけ介護総合演習Ⅰにおける事前学習での学びが重要となります。またその他の科目における学びを十分に理解して、実習の場において対象者に対応するための基礎的知識を身につけておくこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	介護福祉の役割と機能（髙橋・山谷・泉・阿部）	地域における様々な場（施設・居宅等）の社会的な役割を学ぶ
	2	介護福祉の役割と機能（髙橋・山谷・泉・阿部）	介護福祉の社会的な役割を学ぶ
	3	利用者理解　（髙橋・山谷・泉・阿部）	利用者の生活の場、日常生活について理解する
	4	利用者理解　（髙橋・山谷・泉・阿部）	利用者及び家族とのコミュニケーションを実践し、人間関係の形成ができる
	5	利用者理解　（髙橋・山谷・泉・阿部）	受け持ち利用者との関わりから、情報収集の必要性を理解する
	6	介護実践　（髙橋・山谷・泉・阿部）	基本的な生活支援技術を実践し、日常生活援助に関する能力を高める
	7	介護実践　（髙橋・山谷・泉・阿部）	住環境設備、福祉機器に関する知識及びその活用方法を身につける
	8	介護実践　（髙橋・山谷・泉・阿部）	介護実践の根拠を理解し、相手の立場で考える習慣を身につける
	9	介護実践	対象者との関わりを体験し、介護ニーズに対応できる知識と能力を身につける
	10	専門職としての役割と職業倫理　（髙橋・山谷・泉・阿部）	介護福祉士の業務を理解する
	11	専門職としての役割と職業倫理　（髙橋・山谷・泉・阿部）	介護福祉を学ぶ学生として自己を振り返る場とする
	12	専門職としての役割と職業倫理　（髙橋・山谷・泉・阿部）	専門職としての職業倫理を身につける
	13	その他詳細は介護福祉実習要項を参照とする　（髙橋・山谷・泉・阿部）	
	14		

授業科目	介護福祉実習Ⅰ	担当教員 実務経験	阿部幸恵 有：■　　無：□	看護師として病院に勤務
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	障害の理解	担当教員	山形　千都子		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	障害のある人の生活を支える上で基本となる障害のとらえ方や障害福祉の基本理念を理解し、障害別の基礎的知識とそれぞれの障害特性に応じた支援のあり方を習得する。障害のある人や家族の地域での生活を理解し、それを支える社会資源や多職種との連携・協働、家族支援のあり方を習得する。				
到達目標	①障害の概念と障害者福祉の基本理念に関して説明ができる。 ②障害のある人の生活と障害特性に応じた支援について説明ができる。 ③障害のある人の支援委必要な連携と協働、家族への支援について説明ができる。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 14　障害の理解　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	試験、提出物、授業参加態度等、総合的に評価します。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	10	
	その他	20	

履修上の留意事項	毎回講義資料を配布し各回の授業展開・目標を提示します。教科書を基本に演習課題を提示しグループワークで深めていくので、積極的に参加し必ず発言をしてください。ホームワークをもとに次回の授業で演習を行いますので、自己学習に取り組んでください。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	障害の基礎的理解	オリエンテーション 障害の概念、障害者福祉の基本理念
	2	障害の基礎的理解	障害者福祉の現状と施策
	3	障害が及ぼす心理的影響について	病気や事故による障害の受容過程と心理的支援方法
	4	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　Ⅰ	運動機能障害、視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害の理解と支援
	5	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　Ⅰ	内部障害の理解と支援（循環器・呼吸器・泌尿器・消化器）
	6	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　Ⅰ	内部障害（HIV,肝機能）、重症心身障害の理解と支援
	7	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　Ⅱ	知的障害・精神障害の理解と支援
	8	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　Ⅱ	精神障害の理解と支援
	9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　Ⅱ	高次脳機能障害、発達障害・難病の理解と支援
	10	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　Ⅱ	演習　アセスメントについて学ぶ
	11	連携と協働	地域のサポート体制
	12	連携と協働	多職種協働によるチームアプローチ
	13	家族への支援	家族支援の在り方 家族の介護力の評価と介護負担の軽減
	14	当事者主体の自立支援の在り方	演習　事例で自立支援を考える
	15	まとめ	これまでの学習のまとめ

授業科目	障害の理解	担当教員 実務経験	山形千都子 有：■　　無：□	保健師･障害者相談支援専門員として障害者支援従事
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護の基本Ⅱ	担当教員	立成　みゆき		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修・4 単位	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
到達目標	「その人らしい生活を支援する専門職」として基本となる考え方や姿勢を学び、「自立に向けた介護とは何か」を理解し、生活支援としての介護の役割や専門的能力を身に付ける。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新　介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『福祉小六法 2024』　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	60	定期試験、小テスト、提出物、グループディスカッション時の積極的な発言や相手の意見を聞く姿勢などを総合的に評価します。
レポート	0	
小テスト	20	
提出物	10	
その他	10	

履修上の留意事項

テキストを中心に板書・プリント・視聴覚機器などによる学習を行い、演習、事例検討、施設見学等も取り入れます。「介護の専門職」として、基本となる知識、技術、姿勢、思考の基本となることを学ぶ科目です。介護福祉に携わる者としての人格形成をなす中核的科目であることを十分理解して学びを深めてください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	教科書Ⅰ第 1 章　介護福祉とは①	身近になった介護サービス
2	教科書Ⅰ第 1 章　介護福祉とは②	介護の意味、見方、考え方の変化
3	教科書Ⅰ第 1 章　介護福祉とは③	介護問題への対応、歴史的変遷①
4	教科書Ⅰ第 1 章　介護福祉とは④	介護問題への対応、歴史的変遷②
5	教科書Ⅰ第 1 章　介護福祉とは⑤	介護サービスの歴史的変遷、時代背景①
6	教科書Ⅰ第 1 章　介護福祉とは⑥	介護サービスの歴史的変遷、時代背景②
7	教科書Ⅰ第 1 章　介護福祉とは⑦	介護サービスの歴史的変遷、時代背景③
8	教科書Ⅰ第 1 章　介護福祉とは⑧	介護と医行為、医療的ケアについて
9	教科書Ⅰ第 1 章　介護福祉とは⑨	介護理念について
10	教科書Ⅰ第 1 章　介護福祉とは⑩	基本的人権の主体
11	教科書Ⅰ第 1 章　介護福祉とは⑪	利用者主体の生活支援
12	教科書Ⅰ第 1 章　介護福祉とは⑫	利用者の権利に基づくサービス指針
13	教科書Ⅱ第 3 章　感染対策の基礎	感染対策、手洗い演習、前期まとめ
14	教科書Ⅰ第 2 章　介護福祉士の機能と役割①	地域包括ケアシステムの背景
15	教科書Ⅰ第 2 章　介護福祉士の機能と役割②	介護問題の背景
16	教科書Ⅰ第 2 章　介護福祉士の機能と役割③	介護予防の視点
17	教科書Ⅰ第 2 章　介護福祉	災害時支援と災害派遣福祉チーム

		士の機能と役割④	
	18	教科書Ⅰ第２章　介護福祉士の機能と役割⑤	社会福祉士及び介護福祉士法
	19	教科書Ⅰ第２章　介護福祉士の機能と役割⑥	求められる介護福祉士像
	20	教科書Ⅰ第２章　介護福祉士の機能と役割⑦	介護福祉士を支える団体
	21	教科書Ⅰ第３章　介護福祉士の倫理①	介護実践における倫理
	22	教科書Ⅰ第３章　介護福祉士の倫理②	「介護の倫理」と「尊厳ある介護実践」①
	23	教科書Ⅰ第３章　介護福祉士の倫理③	「介護の倫理」と「尊厳ある介護実践」②
	24	教科書Ⅰ第３章　介護福祉士の倫理④	日本介護福祉士会倫理綱領①
	25	教科書Ⅰ第３章　介護福祉士の倫理⑤	日本介護福祉士会倫理綱領②
	26	教科書１第３章　介護福祉士の倫理⑥	倫理について考える演習
	27	まとめ	国家試験に挑戦、授業のまとめ
	28	教科書Ⅰ第４章第３節介護とリハビリテーション①	リハビリテーションの考え方
	29	教科書Ⅰ第４章第３節介護とリハビリテーション②	理学療法の理解
	30	教科書Ⅰ第４章第３節介護とリハビリテーション③	作業療法の理解

授業科目	介護の基本Ⅱ	担当教員 実務経験	立成　みゆき 有：■　　無：□	介護福祉士としてデイサービスに勤務
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	発達と老化の理解	担当教員	阿部　幸恵		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修・4 単位	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。				
到達目標	介護実践に必要な根拠となる心身の構造、機能、発達段階とその課題及び特徴的な疾病について述べられる。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解　第 2 版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 （参考図書）『からだの地図帳　新版』　佐藤達夫　講談社				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	・左記「小テスト」は、単元ごとに小テストを実施します。 ・左記「提出物」は、DVD 鑑賞後の感想その他必要に応じてプリントの確認のための提出を求めます。 ・左記「その他」は、積極的発言や授業参加姿勢、必要資料の準備が整っているなどが含まれます。 以上を総合的に勘案します。
レポート	0	
小テスト	10	
提出物	10	
その他	10	

履修上の留意事項

毎回内容が違いますから休まないように自己の体調管理をしてください。休んだ際は必ず担当まで確認に来てください。
少し難しい分野かもしれません。積極的に授業に参加してください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	第 1 章　人間の成長と発達の基礎的知識	オリエンテーション　成長・発達の考え方
2	第 1 章　人間の成長と発達の基礎的知識	成長・発達の原則・影響する要因
3	第 2 章　人間の発達段階と発達課題	発達理論・発達段階と発達課題
4	第 2 章　人間の発達段階と発達課題	身体的機能の成長と発達　心理的機能・社会的機能の発達
5	第 3 章　老年期の特徴と発達課題	老年期の定義　老化とは
6	第 3 章　老年期の特徴と発達課題	老年期の発達課題　老年期をめぐる今日的課題
7	第 4 章　老化に伴うこころとからだの変化と生活	老化に伴う身体的な変化と生活への影響①
8	第 4 章　老化に伴うこころとからだの変化と生活	老化に伴う身体的な変化と生活への影響②
9	第 4 章　老化に伴うこころとからだの変化と生活	老化に伴う心理的な変化と生活への影響　注意と記憶　パーソナリテイ
10	第 4 章　老化に伴うこころとからだの変化と生活	老化に伴う社会的な変化と生活への影響　老化理論
11	第 5 章　高齢者と健康	高齢者の健康が注目されるようになった背景と疾患の症状と特徴を理解する
12	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨関節系（骨粗鬆症・骨折など）
13	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨関節系（変形性膝関節症・腰部脊柱管狭窄症、関節リウマチなど）
14	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系（パーキンソン病）
15	ここまでの振り返り	ここまでのまとめ　振り返り
16	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系（脳血管疾患）

	17	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系（脳血管疾患）
	18	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	皮膚・感覚器系（白内障・緑内障・黄斑変性症・難聴・皮膚疾患）
	19	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	循環器系（高血圧・虚血性心疾患・不整脈・心不全・閉塞性動脈硬化症）
	20	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	循環器系（高血圧・虚血性心疾患・不整脈・心不全・閉塞性動脈硬化症）
	21	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	呼吸器系（慢性閉塞性肺疾患・肺炎・喘息・結核）
	22	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	消化器系（消化性潰瘍・逆流性食道炎・肝硬変など）
	23	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	腎・泌尿器系（前立腺肥大症・尿路感染症・慢性腎臓病・（復習/尿失禁））
	24	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	内分泌・代謝系（糖尿病・脂質異常症・痛風など）
	25	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	歯・口腔疾患（歯周病・ドライマウス）　悪性新生物（概要・変遷・法律など）
	26	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	さまざまな悪性新生物（がん）ついて
	27	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	感染症（ウィルス性呼吸器感染症・感染性胃腸炎・胆のう炎・胆管炎・疥癬）
	28	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	精神疾患（うつ病・統合失調症）
	29	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	その他（熱中症・脱水・貧血）　多職種連携
	30	まとめ	今までの振りかえりとまとめ

授業科目	発達と老化の理解	担当教員 実務経験	阿部　幸恵 有：■　　無：□	看護師として病院に勤務
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	医学概論	担当教員	泉　共基		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	医学概論は医療福祉の分野における基礎的な学問であり、身体構造をはじめ健康と疾病の概念、疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション、公衆衛生についてを学びます。福祉職が業務を行うにあたって必要な医療知識や健康対策・保健医療対策の知識を学びます。				
到達目標	身体構造に関する知識を習得し、どのような役割や機能を果たしているかを説明できる。保健医療における健康と疾病の概念を述べることができる。 疾病がどのように発生するか、原因と機序を理解したうえで予防方法を考えることができる。公衆衛生の考え方と対策を述べることができる。				
テキスト・参考図書等	「最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 1　医学概論」日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	定期試験、小テスト、提出物、授業への参加態度を総合して評価します。
レポート	0	
小テスト	15	
提出物		
その他	15	

履修上の留意事項

小テストを実施することがあります。評価方法に含まれているので積極的に参加してください。福祉医療に必要な基礎的な授業です。今後も深く関わる内容であるため、難しく考えずに楽しく参加してください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	ライフステージにおける心身の変化と健康課題	オリエンテーション　ライフステージにおける心身の特徴と健康課題
2	身体の構造と心身機能① 健康及び疾病の捉え方	身体構造と骨の仕組み　健康と疾病の概念　健康の定義
3	身体の構造と心身機能② 疾病と障害の成り立ち	心身機能（肺循環と体循環）　疾病の発生原因と成立機序
4	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション① リハビリテーションの概要 骨と関節の疾患、眼科疾患	リハビリテーションの定義、目的、対象と方法　骨折　眼の構造　視覚障害
5	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション② 呼吸器疾患　耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害	肺の構造　慢性閉塞性肺疾患（COPD）　肺炎　肺結核　肺がん　睡眠時無呼吸症候群　耳の構造　耳鼻咽喉疾患　聴覚障害　平衡機能障害
6	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション③ 感染症　口腔疾患	ノロウイルス感染　エイズ　コロナウイルス　ウイルス性肝炎　結核　腸管出血大腸炎（O157）　う歯　歯周疾患
7	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション④ 精神疾患・発達障害　小児疾患・婦人科疾患	発達障害をはじめとする主な精神疾患　小児科疾患（発達障害　肢体不自由　障害者手帳）ダウン症　血友病　妊娠と合併症
8	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑤ 神経疾患　認知症、高次脳機能障害　脳血管疾患	脳の構造　アルツハイマー型認知症　レビー小体型認知症　パーキンソン病　脳梗塞　脳出血　クモ膜下出血
9	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション① 内分泌疾患	糖尿病（分類　慢性合併症　治療）　代謝異常（高尿酸血症　痛風） 甲状腺疾患（機能亢進症バセドウ病　機能低下症　慢性甲状腺炎）

	10	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション② 腎・泌尿器　生活習慣病	腎臓の構造　腎不全（急性腎不全　慢性腎不全）腎代替療法（血液透析　腹膜透析　腎移植）　泌尿器疾患　尿路感染　前立腺疾患　悪性新生物（がん）
	11	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション③ 血液疾患　膠原病　アレルギー疾患	血液疾患（貧血と白血病）　関節リウマチ　SLE　アナフィラキシーショック
	12	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション④ 心疾患	虚血性心疾患（狭心症　心筋梗塞）　心不全　不整脈　大動脈疾患　高血圧
	13	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑤ 消化器疾患	消化器官の構造　肝胆膵疾患（肝炎　肝障害　肝硬変　肝癌　膵炎　胆石症）消化器疾患・消化器癌（食道癌　胃癌　大腸癌　膵臓癌）
	14	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑥ 高齢者に多い疾患　悪性腫瘍と緩和ケア	廃用症候群　高齢者の特徴　生理変化　老年症候群（嚥下障害　浮腫　褥瘡　脱水）
	15	公衆衛生（公衆衛生の概要健康増進と保健医療対策） まとめ	公衆衛生の定義と予防医学　保健医療対策　母子保健対策　成人保健対策 高齢者保健対策　精神保健対策　健康日本２１

授業科目	医学概論	担当教員 実務経験	泉共基 有：■　　無：□	看護師として病院に勤務
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護の基本Ⅰ	担当教員	木村　聖美		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修・4 単位	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
到達目標	「その人らしい生活を支援する専門職」として基本となる考え方や姿勢を学び、「自立に向けた介護とは何か」を理解し、生活支援としての介護の役割や専門的能力を身に付ける。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新　介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『福祉小六法 2024』　　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	60	定期試験、小テスト、提出物、グループディスカッションの積極的な姿勢（発言、相手の意見への理解）を総合的に評価します。
レポート	0	
小テスト	20	
提出物	10	
その他	10	

履修上の留意事項

テキストを中心に板書・プリント・視聴覚機器などによる学習を行い、演習、事例検討、施設見学等も取り入れます。「介護の専門職」として、基本となる知識、技術、姿勢、思考の基本となることを学ぶ科目です。介護福祉に携わる者としての人格形成をなす中核的科目であることを十分理解して学びを深めてください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明
2	教科書Ⅱ第 1 章介護福祉を必要とする人の理解①	生活とは何か
3	教科書Ⅱ第 1 章介護福祉を必要とする人の理解②	生活にとって大切な要素、生活の特性
4	教科書Ⅱ第 1 章介護福祉を必要とする人の理解③	介護福祉を必要とする人の暮らしを理解するということ 介護福祉を必要とする高齢者の暮らし
5	教科書Ⅱ第 1 章介護福祉を必要とする人の理解④	介護福祉を必要とする障害者の暮らし
6	教科書Ⅱ第 1 章介護福祉を必要とする人の理解⑤	個人の暮らしや歴史を聴く場合の注意点
7	教科書Ⅱ第 1 章介護福祉を必要とする人の理解⑥	その人らしさとは何か、その人らしさの背景、その人らしさの介護福祉における活用、生活ニーズの理解、個々の生活ニーズにどこまでこたえるか
8	教科書Ⅱ第 1 章介護福祉を必要とする人の理解⑦	生活のしづらさについて考える、日常生活から考える「生活のしづらさ」
9	教科書Ⅱ第 1 章介護福祉を必要とする人の理解⑧	「生活のしづらさ」に対する支援、家族介護者への支援
10	教科書Ⅱ第 2 章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ①	施設見学
11	教科書Ⅱ第 2 章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ②	施設見学
12	教科書Ⅱ第 2 章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ③	高齢者のためのフォーマルサービスの概要
13	教科書Ⅱ第 2 章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ④	障害者のためのフォーマルサービスの概要
14	教科書Ⅱ第 2 章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑤	費用負担の区分、フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係、インフォーマルサービスの種類・提供者 介護福祉士に求められる支援の視点

	15	教科書Ⅱ第２章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑥	地域連携の意義と目的
	16	教科書Ⅱ第２章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑦	地域連携に関わる機関の理解
	17	教科書Ⅱ第２章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑧	利用者を取り巻く地域連携の実際
	18	教科書Ⅰ第４章自立に向けた介護福祉のあり方①	自立支援とは
	19	教科書Ⅰ第４章自立に向けた介護福祉のあり方②	自立支援とエンパワメントの考え方
	20	教科書Ⅰ第４章自立に向けた介護福祉のあり方③	自立支援と ICF（国際生活機能分類）の考え方
	21	教科書Ⅰ第４章自立に向けた介護福祉のあり方④	介護における ICF のとらえ方
	22	教科書Ⅰ第４章自立に向けた介護福祉のあり方⑤	介護予防の概要
	23	教科書Ⅰ第４章自立に向けた介護福祉のあり方⑥	介護予防の種類と特徴
	24	教科書Ⅰ第４章自立に向けた介護福祉のあり方⑦	高齢者の身体特性と介護予防
	25	教科書Ⅰ第４章自立に向けた介護福祉のあり方⑧	介護予防の実際
	26	教科書Ⅰ第４章自立に向けた介護福祉のあり方⑨	自立支援と介護予防
	27	教科書Ⅰ第４章自立に向けた介護福祉のあり方⑩	介護予防における介護福祉士の役割
	28	高齢者と薬①	薬の知識
	29	高齢者と薬②	薬の使用方法と留意点
	30	まとめ	今までの振り返り

授業科目	介護の基本Ⅰ	担当教員 実務経験	木村　聖美 有：■　　無：□	介護福祉士として訪問介護事業所に勤務
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護過程の基礎	担当教員	山谷　博美		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	介護福祉士として専門的な見地から介護を提供できるように、対象となる方の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。				
到達目標	介護過程の展開を理解し、介護福祉士として専門的な見地から利用者を適切に捉え、本人主体の介護過程を展開できるようになる。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 9　介護過程　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	60	その他は、授業への取り組み姿勢やグループワークへの積極的姿勢等、総合的に評価します。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	20	
	その他	20	

履修上の留意事項	講義や演習では学生参加型授業が主となります。理解できない場合は質問するなど、積極的な参加を求めます。介護サービス提供に向けて大切な授業です。授業中に課した課題を次回の授業教材として使用する場合があるので、課題の提出期限は必ず守ってください。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	介護過程とは	介護過程の意義・目的・構成要素
	2	介護過程の理解	介護過程の展開
	3	介護過程と ICF①	ICF の視点と介護過程の関係
	4	介護過程と ICF②	ICF を活用した情報収集（個人ワーク）
	5	介護過程と ICF③	ICF を活用した情報収集（グループワーク①）
	6	介護過程と ICF④	ICF を活用した情報収集（グループワーク②）
	7	介護過程と ICF⑤	ICF を活用した情報収集（発表）
	8	アセスメント（情報収集）①	情報収集の意義・方法
	9	アセスメント（情報収集）②	情報収集と記録（ケース・スタディの記入方法①）
	10	アセスメント（情報収集）③	情報収集と記録（ケース・スタディの記入方法②）
	11	アセスメント（情報収集）④	事例検討Ⅰ（情報収集の個人ワーク①）
	12	アセスメント（情報収集）⑤	事例検討Ⅰ（情報収集の個人ワーク②）
	13	アセスメント（情報収集）⑥	事例検討Ⅰ（情報収集の個人ワーク③）
	14	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）	アセスメントの視点
	15	まとめ	介護過程の基礎まとめ

授業科目	介護過程の基礎	担当教員 実務経験	山谷　博美 有：■　　無：□	介護福祉士として介護老人保健施設に勤務
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生活支援技術Ⅲ	担当教員	山谷　博美		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修・3 単位	単位数	
授業形態		授業回数	45 回	時間数	90 時間
授業目的	本人主体の生活が継続できるよう、介護を必要とする対象や様々な場面における根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習する。				
到達目標	その方の状況や場面に合わせて、『障害などがあってもこれまでの生活が継続されるように現在の状態を把握し、潜在能力を引き出す』『自立を目指してできる能力を伸ばしていく』といった個別性を重視した介護を展開できるようになる。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 6　生活支援技術Ⅰ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新　介護福祉士養成講座 7　生活支援技術Ⅱ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	60	その他については、実技達成状況の評価とする。
レポート	0	
小テスト	10	
提出物	10	
その他	20	

履修上の留意事項

・教科書に基づき講義・演習し、必要に応じて参考資料配布・DVD・AR 等を活用する。
・介護実習室にて演習を行う場合『介護技術学内実習の受け方』に従う。
・介護技術の基本をマスターできるように、繰り返しの練習とその根拠を知った上で行うことが重要となる。各自の積極性が求められ、授業時間以外においても復習が必要となり常に何ができて何が不充分であるかを確認しながら行ってほしい。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	基本となる介護技術とは何か（山谷）	生活支援技術を学ぶにあたって
2	生活者体験（山谷）	高齢者・片麻痺体験
3	自立に向けた移動の介護①（工藤）	移動の基礎知識、ボディメカニクスの理解
4	自立に向けた移動の介護②（工藤）	体位変換～上方移動・水平移動～
5	自立に向けた移動の介護③（工藤）	体位変換～背面法・対面法～
6	自立に向けた移動の介護④（工藤）	体位変換～仰臥位→端座位→立位～①
7	自立に向けた移動の介護⑤（工藤）	体位変換～仰臥位→端座位→立位～②
8	自立に向けた移動の介護⑥（工藤）	体位変換の復習
9	自立に向けた移動の介護⑦（工藤）	体位変換【実技チェック／振り返りシート作成】
10	自立に向けた移動の介護⑧（橋本）	杖歩行
11	自立に向けた移動の介護⑨（橋本）	褥瘡の予防、安楽な体位の保持、車いすの基礎知識
12	自立に向けた移動の介護⑩（橋本）	ベッド⇔車いすの移乗①
13	自立に向けた移動の介護⑪（橋本）	ベッド⇔車いすの移乗②
14	自立に向けた移動の介護⑫（橋本）	ベッド⇔車いすの移乗③
15	自立に向けた移動の介護⑬（橋本）	移乗【実技チェック／振り返りシート作成】
16	自立に向けた移動の介護⑭（橋本）	車いす移動①《実技》
17	自立に向けた移動の介護⑮（橋本）	車いす移動②

	18	自立に向けた食事の介護①（山谷）	食事の基礎知識、具体的支援内容
	19	自立に向けた食事の介護②ST との連携（山谷）	嚥下のメカニズムと嚥下の観察や食事時のポジショニング、トロミについて、嚥下体操
	20	自立に向けた食事の介護③（山谷）	食事介助の体験①
	21	自立に向けた食事の介助④（山谷）	食事介助の体験②
	22	自立に向けた排泄の介護①（橋本）	排泄の基礎知識～リハビリパンツ体験～
	23	自立に向けた排泄の介護②（橋本）	トイレでの排泄介助（リハビリパンツ、尿とりパッド）
	24	自立に向けた排泄の介護③（橋本）	尿器、便器、ポータブルトイレ、パウチ
	25	自立に向けた排泄の介護④（橋本）	紙おむつ①～対面法～
	26	自立に向けた排泄の介護⑤（橋本）	紙おむつ②～背面法～
	27	自立に向けた排泄の介護⑥（橋本）	紙おむつ③～下衣一式～
	28	自立に向けた排泄の介護⑦（橋本）	排泄【実技チェック／振り返りシート作成】
	29	自立に向けた排泄の介護⑦（橋本）	立位での紙おむつ、布おむつ
	30	介護実技試験対策①（橋本）	介護実技試験対策①
	31	介護実技試験対策②（橋本）	介護実技試験対策②
	32	介護実技試験対策③（橋本）	介護実技試験対策③
	33	介護実習の振り返り①（山谷）	介護実習の振り返り①
	34	介護実習の振り返り②（山谷）	介護実習の振り返り②
	35	自立に向けた移動の介護⑯（橋本）	様々な移乗方法
	36	自立に向けた移動の介護⑰（山谷）	福祉用具を用いた介助
	37	自立に向けた移動の介護⑱（山谷）	日常生活道具を用いた介助
	38	居住環境の整備①（橋本）	住まいの役割と機能
	39	居住環境の整備②（橋本）	生活空間
	40	居住環境の整備③（橋本）	快適な室内環境
	41	居住環境の整備④（橋本）	安全に暮らすための生活環境
	42	居住環境の整備⑤（橋本）	居住環境の整備における多職種との連携
	43	居住環境の整備⑥（橋本）	居住環境のまとめ
	44	介護福祉士国家試験対策（山谷）	介護福祉士国家試験に向けた模擬問題
	45	まとめ（山谷）	生活支援技術のまとめ

授業科目	生活支援技術Ⅲ	担当教員 実務経験	工藤　大暉 有：■　　無：□	介護福祉士として介護老人保健施設に勤務
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護福祉基礎実習	担当教員	髙橋　綾		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	48 回	時間数	96 時間
授業目的	1．住み慣れた地域で暮らす高齢者や障害のある人が、その人らしく生活している状況を理解し、生活支援のあり方を学ぶ。 2．人間関係を形成しながら、個別ケアの重要性について学ぶ。				
到達目標	令和 6 年度介護福祉実習要項参照				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 10　介護総合演習・介護実習　第 2 版』　　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『令和 6 年度介護福祉実習要項』　学校法人吉田学園 専門学校北海道福祉・保育大学校				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	実習先評価及び学校評価を総合的に判断する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	100	

履修上の留意事項	介護福祉基礎実習を実践するためには、とりわけ介護総合演習Ⅰにおける事前学習での学びが重要となります。またその他の科目における学びを十分に理解して、実習の場において対象者に対応するための基礎的知識を身に付けておくこと。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	介護福祉の役割と機能	地域における多様な生活の場の社会的な役割を理解する
2	介護福祉の役割と機能	入所介護・通所介護の必要性を学ぶ
3	介護福祉の役割と機能	介護福祉の社会的な役割を考える
4	利用者の理解	地域における生活、日常生活について理解する
5	利用者の理解	地域における生活を支える社会資源と支援制度を学ぶ
6	利用者の理解	コミュニケーションを実践して、人間的関わりの基礎を学ぶ
7	専門職としての役割及び介護実践	利用者の様々な生活の場における、介護福祉士の役割を学ぶ
8	専門職としての役割及び介護実践	安全に配慮した基礎的な介護技術・知識を学ぶ
9	その他詳細は介護福祉実習要項を参照とする	
10		

授業科目	介護福祉基礎実習	担当教員 実務経験	阿部　幸恵 有：■　　無：□	看護師として病院に勤務
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	担当教員	吉岡　秀典		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	本学科の実習は、1 年次の介護福祉基礎実習に始まり、4 年次のソーシャルワーク実習Ⅲまで、積み上げを意識している。そこで本科目では、①4 年間の実習の流れ（全体像）を把握し、当該実習の位置づけや目的、他実習との連関を理解する、②実習教育の意味及び構造を理解する、③ソーシャルワークの基礎知識を振り返るとともに実践の場を理解する、④ソーシャルワーク実習生としての姿勢を身につけることを目的とする。				
到達目標	①主体的な学習姿勢で授業に臨むことができる。②介護福祉基礎実習からソーシャルワーク実習への積み上げを意識し説明できる。③実習教育の意味及び構造を説明できる。④ソーシャルワーク及び実践の場に関する知識を習得し、ソーシャルワーク実践をイメージできる。				
テキスト・参考図書等	『最新　社会福祉士養成講座 8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習［社会専門］』 日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	レポート、リアクションペーパーの内容および提出状況や、主体的な学習姿勢（グループディスカッション時における主体的参加、共感的理解、無条件の肯定的関心、能動的・積極的傾聴、教員の問いかけに対する応答など）により評価します。
レポート	50	
小テスト		
提出物	30	
その他	20	

履修上の留意事項

教科書を基本としますが、必要に応じてレジュメや資料を配布するほか、視聴覚機器や ICT 端末を活用します。また、状況によっては見学実習や実習指導者講話を予定します。配布プリントは、各自でファイルを用意し、整理してください。分からないこと、困っていることなどがあれば、教員に相談をして下さい。実習に向かうための準備を行う科目ですので、実習時に求められる主体的な行動を意識して臨んでください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	実習教育の全体像	実習とは 4 年間で履修する各実習や「講義ー演習ー実習」のつながり・循環の理解
2	ソーシャルワーク実習の意義・目的①	ソーシャルワーク実習を行う実践の場の紹介と特徴 ソーシャルワーク実習で求められる内容
3	ソーシャルワーク実習の意義・目的②	ソーシャルワーク実習の目的と意義 スペシフィックな現場体験とジェネラリストソーシャルワーカー養成
4	ソーシャルワーク実習指導の意義・目的	「実習前ー実習中ー実習後」のつながりの理解 実習生のレディネスとしての自己肯定感と自己評価
5	ソーシャルワーク実習の構造①	実習にかかわるシステムと 4 者関係 構造的なものの見方
6	ソーシャルワーク実習の構造②	実習構造からみえる実習生、教員、実習指導者に求められること 構造的にものを見ることの意義
7	ソーシャルワークの基本①	ソーシャルワーク実習報告会から学ぶソーシャルワーク実践とクライエント理解①
8	ソーシャルワークの基本②	ソーシャルワーク実習報告会から学ぶソーシャルワーク実践とクライエント理解②
9	ソーシャルワークの基本③	事例から学ぶソーシャルワーク実践とクライエント理解、ジェネライスト・ソーシャルワーカーの理解
10	ソーシャルワーカーに期待される役割	ソーシャルワークの本質を知る。コンピテンシーとクリティカルシンキングについて。ソーシャルワーカーの専門性。
11	現場見学体験学習①	訪問先の概要についての理解　グループ討議
12	現場見学体験学習②	施設・事業所における見学体験学習
13	現場見学体験学習③	施設・事業所における見学体験学習
14	現場見学体験学習④	現場見学体験学習報告会（プレゼンテーションによる情報共有）
15	ソーシャルワーク実習に向けて	全体の振り返りと今後のソーシャルワーク実習指導の展開

授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	担当教員 実務経験	杉浦理恵 有：■　　無：□	社会福祉士として児童福祉施設に勤務
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	こころとからだのしくみ	担当教員	喜田　俊恵		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修・4 単位	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	人のこころやからだを理解する上での基本的内容を学ぶ。身じたく、移動、食事、入浴などの生活活動に対して、そのしくみや加齢による変化、及び心理的側面への配慮を学ぶ。				
到達目標	・日常生活動作を行う為の身体のしくみについて、専門職としての必要な知識を述べることができる。 ・介護を実践するにあたり、ケアの根拠を説明することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 11　こころとからだのしくみ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	50	・定期試験、小テスト、授業への取組姿勢・参加態度を総合的に評価します。
	レポート	0	
	小テスト	30	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	教科書に基づき講義・演習と定期的に小テストを行います。生活支援技術と関連付けて学習して下さい。覚えなければならないことがたくさんあります。積極的に授業に参加して、知識を深めていって下さい。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	こころとからだのしくみとは何か　授業の進め方について
	2	こころのしくみを理解する	人間の欲求とは・自己実現と尊厳・こころのしくみの基礎
	3	からだのしくみを理解する	からだのしくみ
	4	からだのしくみを理解する	からだのしくみ
	5	からだのしくみを理解する	からだのしくみ・演習
	6	移動に関連したこころとからだのしくみ	移動のしくみ
	7	移動に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響
	8	移動に関連したこころとからだのしくみ	変化の気づきと対応・演習
	9	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	身じたくのしくみ
	10	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	身じたくのしくみ
	11	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響
	12	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	変化の気づきと対応・演習
	13	食事に関連したこころとからだのしくみ	食事のしくみ
	14	食事に関連したこころとからだのしくみ	食事のしくみ
	15	食事に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響
	16	食事に関連したこころとからだのしくみ	変化の気づきと対応・演習
	17	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	入浴・清潔保持のしくみ
	18	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	入浴・清潔保持のしくみ
	19	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響

	20	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	変化の気づきと対応・演習
	21	排泄に関連したこころとからだのしくみ	排泄のしくみ
	22	排泄に関連したこころとからだのしくみ	排泄のしくみ
	23	排泄に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響
	24	排泄に関連したこころとからだのしくみ	排泄での変化の気づきと対応・演習
	25	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	休息・睡眠のしくみ
	26	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響
	27	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	変化に気づくためのポイント
	28	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	「死」を理解する。終末期から「死」までの変化と特徴
	29	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	「死」に対するこころの理解
	30	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	医療職との連携のポイント・全体のまとめ

授業科目	こころとからだのしくみ	担当教員 実務経験	喜田　俊恵 有：■　　無：□	看護師として病院に勤務
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	ソーシャルワーク演習Ⅰ	担当教員	髙泉　一生		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修・1 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	本科目では、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養することを目的として、①ソーシャルワークの価値原則と倫理、②基本的コミュニケーション能力、③コミュニケーションの展開過程における基礎知識・技術を実践的に学ぶ。				
到達目標	演習を通じて、①言語的・非言語的コミュニケーションの重要性を説明できる、②自己理解や他者理解の必要性を説明できる、③マイクロ技法を状況に合わせて活用できる、④ソーシャルワークの基本的概念や展開過程を説明できる、⑤自分の思いや考えの主体的・積極的な言語化を実施できる、⑥他者の発言に対してコメントや質問等、主体的・積極的なリアクションを実施できる、⑦基本的なソーシャルワーク記録を書くことができる、ことを到達目標とする。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて、資料を配布する。				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	提出物の内容と提出状況、グループディスカッションでの積極的な発言やその内容、プレゼンテーションの実施姿勢やその内容、教員の問いかけに対する応答、自分の思いや考えを言語化しようとする意欲、演習への主体性・積極性などを総合的に評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	40	
その他	60	

履修上の留意事項：本科目は演習科目のため受け身で受講するのではなく、自ら能動的に発言・意見・質問に取り組むこと。また、他者の意見や考えを受け止める姿勢も重要であり、他者の発言には積極的に耳を傾け、理解しようという意識を持って臨むこと。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション、ソーシャルワークの基本	本科目の位置づけ、目的、進め方、評価基準の理解 ソーシャルワークの基本の理解
2	基本的なコミュニケーション①	他者理解、言語的コミュニケーション技術
3	基本的なコミュニケーション②	非言語的コミュニケーション技術
4	基本的な面接技術①	面接の構造化・場の設定、マイクロ技法の理解、バイスティックの 7 原則の体現
5	基本的な面接技術②	良い実践例に学ぶ面接の在り方
6	ソーシャルワークの展開過程①	ケースの発見、エンゲージメント（インテーク）
7	ソーシャルワークの展開過程②	アセスメント、プランニング、インターベンション
8	ソーシャルワークの展開過程③	モニタリング、エバリュエーション、ターミネーション、アフターケア
9	ソーシャルワーク展開過程④、ソーシャルワークの記録①	インテーク、アセスメントの重要性、記録の概要、意義
10	ソーシャルワークの記録②	記録の類型、支援経過の把握と管理、書き方の留意点
11	グループダイナミクスの活用①	グループワークの構成と展開過程
12	グループダイナミクスの活用②	ファシリテーション技術
13	プレゼンテーション技術①	個人プレゼンテーション、自己覚知・自己理解
14	プレゼンテーション技術②	グループプレゼンテーション
15	まとめ	全体の振り返り

授業科目	ソーシャルワーク演習Ⅰ	担当教員 実務経験	髙泉　一生 有：■　　無：□	社会福祉士として病院に勤務
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	レクリエーション支援	担当教員	長江　孝		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修・1 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	世界的な健康増進の動向の中で、「心を元気にする」ためのレクリエーション支援に注目が集められています。本演習では、レクリエーション支援の基礎を学びます。				
到達目標	レクリエーション支援者として、良好なコミュニケーションづくりの理論に裏付けられた信頼関係を築く方法（ホスピタリティ）や動機づけの理論に裏付けられた「自主的、主体的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開方法」（アイスブレーキング）を実施できるようになる。				
テキスト・参考図書等	『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～』　公益財団法人日本レクリエーション協会				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	小テスト・提出物・演習時の実技・授業への積極的な参加姿勢（発言や意見交換）を総合的に評価します。
	レポート	0	
	小テスト	30	
	提出物	30	
	その他	40	

履修上の留意事項	テキスト・プリントを元に授業を展開します。体を動かすレクリエーション活動を中心に行ないますので、動きやすい服装で参加してください。楽しく積極的な参加を期待します。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	授業の内容と評価について
	2	レクリエーション概論	レクリエーションとは？
	3	レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ
	4	レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ
	5	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法アイスブレーキングモデル
	6	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法アイスブレーキングモデル
	7	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法アイスブレーキングモデル
	8	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法
	9	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法
	10	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法
	11	レクリエーション支援実習	プログラムの立案
	12	レクリエーション支援実習	プログラムの立案
	13	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施
	14	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施
	15	レクリエーション支援実習	まとめ

授業科目	レクリエーション支援	担当教員 実務経験	長江　集子 有：■　　無：□	レクリエーションインストラクターとしてこども共育サポートセンターに勤務
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	高齢者福祉	担当教員	小林　智子		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	本科目では、高齢者とその家族等の生活やこれを取り巻く社会環境について理解を深めます。また高齢者福祉の発展過程と理念、現在、施行されている関連諸制度について理解し、社会福祉士としての適切な支援のあり方について学ぶことを目的とします。				
到達目標	高齢者とその家族等を多面的にアセスメントし、関連諸制度に関する知識やソーシャルワークの価値・技術を用いながら、高齢者と家族等の生活を支えるための具体的な支援方法を説明することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新　社会福祉士養成講座 2　高齢者福祉』　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	定期試験結果、授業内小テストの結果、授業での積極的な発言や発言内容を総合的に判断して最終評価を行います。
レポート	0	
小テスト	10	
提出物	0	
その他	10	

履修上の留意事項

本科目では高齢者福祉に関する関連諸制度など、覚えなければならない専門用語・知識がたくさんありますが、これは社会福祉士国家試験受験にあたり、基礎となるものです。分からないことは分からないままにせず、テキストや参考図書で調べる・教員に質問するといった態度で臨んで下さい。板書は行いますが、それ以外にも教員の説明したことを各自でメモを取って下さい。またノートやプリントの整理（ファイリング）は必ず行って下さい。現代社会では高齢者に関わる様々な課題が新聞やニュース、テレビ番組等で見受けられます。社会に関心を持ち、アンテナを張って、たくさんの情報を収集していきましょう。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション　高齢者と少子高齢社会	高齢者の定義　高齢化の状況
2	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境①	高齢者の生活実態
3	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境②	社会環境
4	高齢者福祉の歴史と理念①	社会福祉の発達前史　第二次世界大戦後の福祉六法体制の確立
5	高齢者福祉の歴史と理念②	保健福祉サービスの量的拡大～地域包括ケアシステムの構築 高齢者福祉の理念
6	介護保険制度①	我が国の社会保障制度の概要 介護保険制度の概要①　介護保険財政　保険者と被保険者
7	介護保険制度②	介護保険制度の概要②　保険料　要介護認定
8	介護保険制度③	介護保険制度の概要③　保険給付
9	介護保険制度④	介護保険制度の概要④　介護保険事業計画　地域支援事業 地域包括支援センター
10	介護保険制度⑤	サービス体系
11	高齢者に対する関連諸制度①	老人福祉法　高齢者医療確保法　高齢者虐待防止法
12	高齢者に対する関連諸制度②	バリアフリー法　高齢者住まい法　高年齢者雇用安定法 育児・介護休業法
13	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割①	関係機関の役割
14	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割②	専門職の役割
15	高齢者と家族等に対する支援の実際	ソーシャルワーカーの役割　支援の実際

授業科目	高齢者福祉	担当教員 実務経験	小林　智子 有：■　　無：□	社会福祉士として成年後見活動に従事
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	障害者福祉	担当教員	山形　千都子		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	地域共生社会の実現を推進する専門職として、障害者の権利を擁護し当事者主体の生活を支える上で必要な知識と視点を習得する。障害者福祉の歴史や現状、各種法制度を学び、専門職が果たす役割について理解を深める。				
到達目標	①障害者とその家族の生活実態とこれを取り巻く社会環境を知り、現状の課題について説明ができる。 ②障害者福祉の変遷と現在の法制度を理解し、説明ができる。。 ③障害者と家族等の支援に関わる関係機関・専門職の役割と支援の実際を理解する。				
テキスト・参考図書等	『最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 8　障害者福祉』日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	試験、提出物、授業参加態度等、総合的に評価します。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	10	
その他	20	

履修上の留意事項

毎回講義資料を配布し各回の授業展開・目標を提示します。教科書を基本に演習課題を提示しグループワークで深めていくので、積極的に参加し必ず発言をしてください。ホームワークをもとに次回の授業で演習を行いますので、自己学習に取り組んでください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	障害概念と特性	各法律による障害者の定義、障害の特性と支援内容、理念 前期講義の復習
2	障害者福祉の理念	障害観の変遷とノーマライゼーション
3	障害者福祉の歴史	障害者への処遇と福祉制度の変遷
4	障害者福祉の歴史	障害者運動（当事者活動、親の会)、障害者基本法の改正
5	障害者の生活実態	障害者の生活実態と家族の現状
6	障害者を取り巻く社会環境と課題	バリアフリー、障害者虐待
7	障害者に対する法制度	法制度の全体像、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法
8	障害者に対する法制度	精神保健福祉法、発達障害者支援法、児童福祉法
9	障害者に対する法制度	障害者総合支援法、自立支援給付
10	障害者に対する法制度	障害者虐待防止法、障害者差別解消法、バリアフリー法等
11	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割	行政・労働・教育・医療機関の役割
12	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割	関連する専門職の役割
13	支援の実際	障害領域における専門職の役割
14	支援の実際	演習　事例で多職種連携による支援を考える
15	まとめ	これまでの学習のまとめ

授業科目	障害者福祉	担当教員 実務経験	山形千都子 有：■　　無：□	保健師･障害者相談支援専門員として障害者支援従事
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	人間の尊厳と自立	担当教員	髙泉　一生		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	「人間」の理解を基礎として、人権尊重や自立の考え方について理解し、倫理的課題に対応するための社会福祉専門職としての倫理観や視点を涵養する。				
到達目標	①社会福祉（介護福祉を含む）における人間の理解の仕方を説明できる、②人権保障の歴史および福祉理念についての概要を説明できる、③社会福祉（介護福祉を含む）における自立概念を説明できる、④本人主体の観点から、人権尊重や自己決定、権利擁護の考え方に基づくかかわりや支援を考えられる、ことを目標とする。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 1　人間の理解　第 2 版』介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	レポート、リアクションペーパーの内容および提出状況や、他者との対話、交流、ディスカッションに臨む姿勢（主体的参加、共感的理解、無条件の肯定的関心、受動的・積極的姿勢など）、教員の問いかけに対する応答などを総合的に評価する。
レポート	40	
小テスト	0	
提出物	30	
その他	30	

履修上の留意事項

本科目は、福祉専門職（介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士）の基盤であり、福祉専門職としてのアイデンティティ形成に大きく影響する科目である。授業中、自身の価値観、倫理観、援助観を問う場面を多数設定するが、常々「この答えで本当に良いのか」と自分自身に問いかけ、より良い答えを追求する姿勢を忘れずに臨むこと。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	本科目を学ぶにあたって、オリエンテーション	人間の尊厳と自立とは
2	人間の尊厳	人間の理解、生活の営みの歴史を理解するために
3	利用者主体	ICIDH から ICF へ、障害者の権利に関する条約
4	人権思想の潮流とその具現化	生存権、社会権、ヒューマニズム、自由権、人権宣言
5	人権や尊厳に関する日本の諸規定	日本国憲法第 13 条・第 25 条、社会福祉法、介護保険法、障害者総合支援法
6	社会福祉領域の人権・理念―戦前の変遷―	エリザベス救貧法、人口論、社会ダーウィニズム、COS、セツルメント運動
7	社会福祉領域の人権・理念―戦中の変遷―	パーソナリティの強化、優生思想の政策化
8	社会福祉領域の人権・理念―戦後の変遷―①	子ども、女性、ＬＧＢＴ、高齢者の人権、貧困問題・人権問題、公民権運動
9	社会福祉領域の人権・理念―戦後の変遷―②	バイスティックの 7 原則、生活モデル、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン
10	社会福祉領域の人権・理念―戦後の変遷―③	QOL、生命倫理と福祉労働
11	人権尊重と権利擁護、エンパワメントの概念理解	権利侵害とその背景、権利擁護の視点
12	権利擁護とエンパワメントの実践理解	アドボカシー、自己決定の尊重
13	自立概念の理解・自立支援①	自立の多様性、自立に欠かせないもの、残存機能を活かす、意欲を高める、選択肢を増やす
14	自立概念の理解・自立支援②	尊厳を守る介護や自立支援、ミクロ・メゾ・マクロから自立を捉える
15	全体のまとめ	各回の振り返り、改めて人間の尊厳と自立とは

授業科目	人間の尊厳と自立	担当教員 実務経験	髙泉　一生 有：■　　無：□	社会福祉士として病院に勤務
対象年次・学期	１年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生活支援技術Ⅰ	担当教員	加藤　聖子		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修・1 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。特に本講義では家庭生活にかかわる食生活の基本知識を学び、さらに家事支援の意義と目的を理解し、様々な場面に応用できる技能を高めることを目標とする。				
到達目標	・食生活に関わる基本の知識・技術を身につけ、生活に応用させる。 ・サービス利用者の状態や状況に応じた、安全で効率の良い家事支援とその留意点などについて説明することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 6　生活支援技術Ⅰ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『オールガイド食品成分表 2024』　実教出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	60	定期試験、講義中のミニテスト、提出物から総合的に評価する。
レポート	0	
小テスト	10	
提出物	30	
その他	0	

履修上の留意事項	教室で教科書・プリント・視聴覚機器を使用する講義と、家政実習室を使用し演習を行います。定期試験、講義中のミニテスト、提出物、実習の取組姿勢から総合的に評価します。提出物の提出期限を守ること、積極的に授業に参加することを心掛けてください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	家庭生活の営み①	食生活の基本知識①食文化、食生活の変化
2	家庭生活の営み②	食生活の基本知識②栄養の理解（炭水化物、脂質）
3	家庭生活の営み③	食生活の基本知識③栄養の理解（たんぱく質、無機質、ビタミン）
4	家庭生活の営み④	食生活の基本知識④献立の立て方・食品の購入と選択
5	家庭生活の営み⑤	食生活の基本知識⑤高齢者・障がい者の食事と調理
6	家庭生活の営み⑥	食生活の基本知識⑥疾患と食事
7	家事支援における介護技術①	調理実習レポートの書き方，実習室の使い方，掃除とごみ捨てについて
8	家事支援における介護技術②	第 1 回調理実習　献立に基づく栄養価計算、食品の調理性、技法
9	家事支援における介護技術③	〃　実習・反省、次回の実習について
10	家事支援における介護技術④	第 2 回調理実習　生活習慣病予防の食事、食品の調理性、技法
11	家事支援における介護技術⑤	〃　実習・反省、次回の実習について
12	家事支援における介護技術⑥	第 3 回調理実習　高齢者・障がい者向けの食事、食品の調理性、技法
13	家事支援における介護技術⑦	〃　実習・反省、次回の実習について
14	家事支援における介護技術⑧	第 4 回調理実習　高齢者・障がい者向けの食事、食品の調理性、技法
15	家事支援における介護技術⑨	〃　実習・反省、全体のまとめ

授業科目	生活支援技術Ⅰ	担当教員 実務経験	加藤　聖子 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護総合演習Ⅰ	担当教員	山谷　博美		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	介護福祉基礎実習及び介護福祉実習Ⅰにおける事前・事後学習として位置付け、実習に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。				
到達目標	介護福祉実習に必要とされる施設や利用者理解、記録方法、行事プログラムの計画・実践等、介護実践に必要な能力を身につける。また実習を振り返り、介護の知識と技術を実践へと結び付けることができる。				
テキスト・参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座 10　介護総合演習・介護実習　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『令和 6 年度 介護福祉実習要項』　学校法人吉田学園 専門学校北海道福祉・保育大学校				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	課題の内容や提出状況、実習の進め方や記録方法の理解度にて総合的に評価します。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	30	
その他	70	

履修上の留意事項

提出物は施設に提出するものもあり、期限厳守でお願いします。理解できないままにしておくと介護福祉実習に影響します。不安なく実習に向かえるよう積極的に取り組んでください。原則欠席をしないことですが、欠席した場合は翌登校時に必ず担当教員のところへ確認に来るようにしてください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	介護実習の意義と目的（山谷）	介護実習の意義と目的、到達目標、学習区分と学習内容、感染予防対策について①
2	記録物について①（山谷）	個人票の作成、誓約書・同意書の作成
3	実習施設の理解①（泉）	介護福祉基礎実習の進め方、介護福祉基礎実習①の事業所理解について（調べ学習）
4	実習施設の理解②（泉）	介護福祉基礎実習①の事業所理解について（報告）、実習前確認用紙の確認、実習目標の作成
5	記録物について②（山谷）	施設実習・出席票の記入方法、実習日誌の目的・目標設定・記録方法(手書き・PC 入力)、実習日誌の練習①
6	実習心得①（泉）	実習の心得、SNS の利用について、感染予防対策について②
7	実習心得②（泉）	接遇マナー、電話対応、訪問練習
8	行事運営の理解①（泉・山谷）	外出レクリエーション計画作成①
9	行事運営の理解②（泉・山谷）	外出レクリエーション計画作成②、実習日誌の練習②
10	介護福祉基礎実習①オリエンテーション（山谷・泉）	実習評価について、記録物の種類の確認と提出方法、実習の振り返りと今後の取り組みの記入方法、お礼状について
11	介護福祉基礎実習①まとめ、実習施設の理解③（泉・山谷）	介護福祉基礎実習①の振り返りと自己評価、アンケート、介護福祉基礎実習②の事業所理解について（調べ学習）
12	実習施設の理解④（泉）	介護福祉基礎実習②の事業所理解について（報告）、実習前確認用紙の確認、個人票・実習目標の作成、誓約書・同意書の作成
13	介護福祉基礎実習②オリエンテーション（山谷・泉）	実習評価について、記録物の種類の確認と提出方法、実習の振り返りと今後の取り組みの記入方法、お礼状
14	介護福祉基礎実習②まとめ、実習施設の理解⑤（泉・山谷）	介護福祉基礎実習②の振り返りと自己評価、アンケート、介護福祉基礎実習③の事業所理解について（調べ学習）
15	実習施設の理解⑥（泉）	介護福祉基礎実習③の事業所理解について（報告）、実習前確認用紙の確認、個人票・実習目標の作成、誓約書・同意書の作成
16	介護福祉基礎実習③オリエンテーション（山谷・泉）	実習評価について、記録物の種類の確認と提出方法、実習の振り返りと今後の取り組みの記入方法、お礼状

	17	介護福祉基礎実習③まとめ、実習施設の理解⑦（泉・山谷）	介護福祉基礎実習③の振り返りと自己評価、アンケート、介護福祉実習Ⅰの事業所理解について（調べ学習）
	18	実習施設の理解⑧、実習計画に向けて（泉）	介護福祉実習Ⅰの事業所理解について（報告）、実習前確認用紙の確認、自己の実習計画をイメージ
	19	実習計画の作成①（山谷）	週別目標の作成①
	20	実習計画の作成②（山谷）	週別目標の作成②、誓約書・同意書の作成
	21	記録物について③（山谷）	個人票作成、ケース・スタディの記入と提出方法
	22	記録物について④（山谷）	受け持ち利用者予定計画表・体験項目チェック表の記入方法、記録物の提出方法について
	23	カンファレンスについて（山谷）	カンファレンスの目的・方法について、カンファレンス用紙の記入方法
	24	実習に向けての事前準備①（泉・山谷）	介護実践に必要な技術の習得①
	25	実習に向けての事前準備②（泉・山谷）	介護実践に必要な技術の習得②
	26	介護福祉実習Ⅰまとめ（山谷・泉）	介護福祉実習Ⅰ振り返り、アンケート
	27	介護福祉実習Ⅰ報告会（山谷・泉）	介護福祉実習Ⅰ報告会
	28	介護福祉実習Ⅰ後学習①（泉）	自己評価、自己覚知、２年次実習へ向けた課題
	29	介護福祉実習Ⅰ後学習②（泉）	福祉施設と地域の繋がり、社会支援体制①
	30	介護福祉実習Ⅰ後学習③（泉）	福祉施設と地域の繋がり、社会支援体制②

授業科目	介護総合演習Ⅰ	担当教員 実務経験	泉　共基 有：■　　無：□	看護師として病院に勤務
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	担当教員	福島　令佳		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	本科目では、「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」の理解をもとに、次の点について理解することを目的とする。①社会福祉士の職域と求められる役割を理解する、②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する、③ミクロ・メゾ・マクロにおけるソーシャルワークの対象と実践、レベルの連関性について理解する、④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義・内容について理解する。				
到達目標	本科目の履修を通して、①ソーシャルワーク専門職としての社会福祉士が働く分野や職域について説明できる、②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける各レベルの対象と実践、レベルの連関性について説明できる、③ジェネラリストの視点および総合的かつ包括的な支援の意義とその内容を説明できる、④多職種・多機関連携によるチームアプローチの意義とその内容について説明できる、ことを目標とする。				
テキスト・参考図書等	『最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 11　ソーシャルワークの基盤と専門職』　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	定期試験の結果や提出物で評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	30	
その他	0	

履修上の留意事項	授業では、テキストの使用のほか、講義資料を配布する。本科目は、ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士の実践の基盤を理解するものであるため、その重要性を認識して受講してください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション	「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」との連動の展開
2	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲	専門職とは、社会生活・地域支援の専門職としてのソーシャルワーカー
3	社会福祉士の職域	社会福祉士が働く職域・職場の理解（行政、福祉、保健医療）
4	社会福祉士の職域	社会福祉士が働く職域・職場の理解（教育、司法、独立型事務所等）
5	福祉行政等における専門職	社会福祉行政における福祉専門職の職種と業務内容およびその役割
6	民間の施設・組織における専門職	民間施設・組織における福祉専門職の職種と業務内容およびその役割
7	諸外国の動向	欧米諸国の動向、その他の諸外国の動向
8	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象	「ミクロ・メゾ・マクロ」の意味と各レベルにおけるソーシャルワークの対象
9	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク	ミクロ・メゾ・マクロの各レベルにおける実践内容の理解
10	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク	ミクロ・メゾ・マクロレベルの連関性と支援の実際
11	総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点	総合的かつ包括的な支援としてのソーシャルワークとジェネラリストの視点の理解およびその意義
12	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容	多機関・多職種の連携・協働による包括的支援体制とその構築、さまざまな社会資源の活用・協働、ソーシャルサポートネットワークの理解
13	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携およびチームアプローチの意義と内容	多職種連携およびチームアプローチの意義と内容
14	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携およびチームアプローチの意義と内容	機関・団体間の合意形成および関係の形成、利用者・家族の参画

	15	まとめ	全体の振り返り

授業科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	担当教員 実務経験	福島　令佳 有：■　　無：□	社会福祉士として母子生活支援施設に勤務
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	人間関係とコミュニケーション	担当教員	渡邊　舞		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	心理学的な側面からの対人理解と援助技法を学び、社会福祉現場で実践できる力を身につける。				
到達目標	・自分と他者を理解し表現することができる。 ・集団の中でのコミュニケーション技法を学び、活用することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 1　人間の理解　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	試験及び授業内で実施する演習の参加度、出席課題、授業で使用するプリント提出等の総合評価とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	10	
	その他	10	

履修上の留意事項	配布プリントはノート代わりの書き込み方式です。最終授業の時に提出してもらい、評価の対象としますので、なくさないように各自ファイル等を準備してください。座学中心の授業ですが、演習やグループワークで理解を深めていきますので、積極的な授業態度を期待しています。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	履修内容・評価について／自分と相手を理解する
	2	人間と人間関係(1)	自分と他者の理解；私は誰？・相手を知る
	3	人間と人間関係(2)	発達心理学からみた人間関係；発達段階説と社会性の発達
	4	人間と人間関係(3)	社会心理学からみた人間関係；対人認知とグループ・ダイナミクス
	5	人間と人間関係(4)	人間関係とストレス；ストレス理論とソーシャルサポート
	6	対人関係におけるコミュニケーション(1)	コミュニケーションの基本構造；送り手と受け手のしくみ
	7	対人関係におけるコミュニケーション(2)	コミュニケーションの手段①；言語的コミュニケーション
	8	対人関係におけるコミュニケーション(3)	コミュニケーションの手段②；非言語的コミュニケーション
	9	対人援助関係とコミュニケーション(1)	人間関係の発展とコミュニケーション；親密な関係の発達と崩壊
	10	対人援助関係とコミュニケーション(2)	対人援助における基本的態度；受容・共感・傾聴
	11	対人援助関係とコミュニケーション(3)	援助的人間関係の形成；バイステックの 7 つの原則
	12	組織におけるコミュニケーション(1)	組織における情報の流れ；コミュニケーションの構造
	13	組織におけるコミュニケーション(2)	組織のおける対立と協力；社会的ジレンマ
	14	組織におけるコミュニケーション(3)	組織におけるコミュニケーション；集団討議とリーダーシップ
	15	まとめ	15 回のまとめとふりかえり

授業科目	人間関係とコミュニケーション	担当教員 実務経験	渡辺　舞 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	担当教員	福島　令佳		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	ソーシャルワーク専門職として基盤となる価値・知識を身につけ、ソーシャルワーク実践への理解の導入を図る。				
到達目標	ソーシャルワークの概念、基盤となる考え方、倫理、ソーシャルワークの形成過程について、説明できることを目標とする。				
テキスト・参考図書等	『最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 11　ソーシャルワークの基盤と専門職』　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	定期試験の結果や提出物で評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	30	
その他	0	

履修上の留意事項：授業では、テキストの使用のほか、講義資料を配布する。本科目は、ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士の実践の基盤を理解するものであるため、その重要性を認識して受講してください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション	本授業の進め方・評価基準、3 つの国家資格をもつことの意義
2	社会福祉士の役割	現代社会の理解
3	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ	社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法
4	ソーシャルワークの概念	ソーシャルワークの定義
5	ソーシャルワークの概念	ソーシャルワークの構成要素
6	ソーシャルワークの基盤となる考え方	ソーシャルワークの原理、理念
7	ソーシャルワークの形成過程	ソーシャルワークの源流
8	ソーシャルワークの形成過程	ソーシャルワークの基礎確立期
9	ソーシャルワークの形成過程	ソーシャルワーク発展期
10	ソーシャルワークの形成過程	ソーシャルワークの展開期と統合化
11	ソーシャルワークの形成過程	日本におけるソーシャルワークの形成過程
12	ソーシャルワークの倫理	専門職倫理の概念
13	ソーシャルワークの倫理	倫理綱領
14	ソーシャルワークの倫理	倫理的ジレンマ
15	まとめ	全体の振り返り

授業科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	担当教員 実務経験	福島　令佳 有：■　　無：□	社会福祉士として母子生活支援施設に勤務
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生活支援技術Ⅱ	担当教員	高橋　カツ子		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修・1 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。特に本講義では、生活支援における家庭生活にかかわる基本知識を学ぶことに重点を置き、さらに家事支援の意義と目的を理解し、様々な場面に応用できる知識・技術の習得を目的とする。				
到達目標	・家庭生活に関わる基本の知識・技術を身につけ、生活に応用させることができる。 ・サービス利用者の状態や状況に応じた、安全で効率の良い家事支援とその留意点などについて説明することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 6　生活支援技術Ⅰ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	定期試験、提出物から総合的に評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	30	
その他	0	

履修上の留意事項：教室で教科書・プリントを使用する講義と、家政実習室を使用し演習を行う。定期試験、提出物、実習の取組姿勢から総合的に評価します。提出物の提出期限を守ること、積極的に授業に参加することを心掛けてください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	生活支援とは何か	生活を理解する視点・生活支援の基本的な考え方
2	家庭生活の理解	家庭生活の営みとは　演習①
3	家庭生活の理解	生活設計の考え方（家庭管理）
4	家庭生活の理解	生活設計の考え方（家庭経済）　演習②
5	家庭生活の営み	被服生活の基本知識①（被服の機能・被服の管理）
6	家庭生活の営み	被服生活の基本知識②（被服の素材）　演習③
7	家庭生活の営み	被服生活の基本知識③（被服の洗濯）　演習④
8	家庭生活の営み	被服生活の基本知識④（皮膚の衛生保持・管理）　問題演習
9	家庭生活の営み	被服の裁縫（裁縫の基本①）
10	家庭生活の営み	被服の裁縫（裁縫の基本②）
11	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の基本③）
12	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の応用①）
13	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の応用②）
14	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の応用③）
15	まとめ	重要項目の確認と演習問題

授業科目	生活支援技術Ⅱ	担当教員 実務経験	髙橋　カツ子 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生活支援技術Ⅳ	担当教員	髙橋　綾		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	この科目で学ぶ介護技術は、単に介助の方法を学ぶだけでなく、その人がこれまでの生活習慣で獲得してきた様式や個性に着目して支援することの大切さを学びます。また、「老い」や「障害」等の見える部分のみを捉えて支援するのではなく、その人を取り巻く環境（人・物）や周囲との関係（相互作用）性等を多角的に捉え、根拠に基づく介護実践（知識と技術の習得）を目指します。				
到達目標	①様々な日常生活行為における意義と目的を説明することができる。②様々な日常生活行為におけるアセスメントの視点を養い、それらを述べることができる。③なぜそのように支援するのか、支援の根拠を理解し述べることができる。④介助におけるポイントや留意点を踏まえ、安全で正確な介助を実施することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 6　生活支援技術Ⅰ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新　介護福祉士養成講座 7　生活支援技術Ⅱ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	60	定期試験：生活行為の意義・目的、また、支援の根拠等の理解度を評価する。 その他：実技達成状況（30%）、授業姿勢（10%）とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	40	

履修上の留意事項	①教科書に基づいて講義・演習を展開しますが、必要に応じて参考資料配布・視聴覚教材・AR を使用します。②歯科衛生学科教員より口腔ケア講習を受講します。③介護実習室にて演習を行う場合「介護技術学内実習の受け方」に従ってください。④介護技術の習得には、根拠を正しく理解した上で繰り返し取り組む姿勢が重要です。関連科目の横断学習と、授業中はもとより授業時間外でも積極的な練習姿勢を求めます。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	基本となる介護技術とは何か、ベッドメイキング①（髙橋・橋本）	生活支援技術を学ぶにあたって、ベッドメイキングの基礎知識
2	ベッドメイキング②（髙橋・橋本）	シーツの畳み方、敷き方（三角コーナー・四角コーナー）①《実技》
3	ベッドメイキング③（髙橋・橋本）	敷き方（三角コーナー・四角コーナー）②《実技》
4	ベッドメイキング④（髙橋・橋本）	敷き方（三角コーナー・四角コーナー）③《実技》
5	ベッドメイキング⑤（髙橋・橋本）	ベッドメイキング一式、臥床したままでのシーツ交換《実技》
6	ベッドメイキング⑥（髙橋・橋本）	ベッドメイキング【実技チェック】《実技》
7	自立に向けた身じたくの介護①（髙橋・橋本）	着脱の基礎知識、前開きの衣類の着脱（座位）①《実技》
8	自立に向けた身じたくの介護②（髙橋・橋本）	前開きの衣類の着脱（座位）②《実技》
9	自立に向けた身じたくの介護③（髙橋・橋本）	丸首衣類の着脱（座位・臥位）《実技》
10	自立に向けた身じたくの介護④（髙橋・橋本）	前開きの衣類の着脱（臥位）《実技》①
11	自立に向けた身じたくの介護⑤（髙橋・橋本）	前開きの衣類の着脱（臥位）《実技》②
12	自立に向けた身じたくの介護⑥（髙橋・橋本）	日常着の着脱、浴衣の着脱《実技》
13	自立に向けた身じたくの介護⑦（髙橋・橋本）	着脱【実技チェック／振り返りシート作成】《実技》
14	自立に向けた身じたくの介護⑧（髙橋・橋本）	場面に応じた着脱介護《実技》
15	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①（髙橋・橋本）	入浴に関する基礎知識

	16	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②（髙橋・橋本）	全身清拭《実技》
	17	自立に向けた入浴・清潔保持の介護③（髙橋・橋本）	入浴介助《実技》
	18	自立に向けた入浴・清潔保持の介護④（髙橋・橋本）	手浴・足浴の介護
	19	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑤（髙橋・橋本）	臥床しての洗髪介護①《実技》
	20	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑥（髙橋・橋本）	臥床しての洗髪介護②《実技》
	21	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑦（髙橋・橋本）	ハンドマッサージ①《実技・練習》
	22	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑧（髙橋・橋本）	ハンドマッサージ②《実技・実践》
	23	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑨（髙橋・橋本）	ハンドマッサージ③《実技・実践》
	24	自立に向けた身じたくの介護⑨（髙橋・橋本）	整容（爪・ひげそり）の介助《実技》　《実技》
	25	自立に向けた身じたくの介護⑩（髙橋・橋本）	口腔ケア①《実技》
	26	自立に向けた身じたくの介護⑪（髙橋・橋本）	口腔ケアの②《実技》
	27	休息と睡眠環境を整える（髙橋・橋本）	休息と睡眠の基礎知識、睡眠の介護と多職種連携
	28	実技のまとめ（髙橋・橋本）	実技のまとめ
	29	介護福祉士国家試験対策①（髙橋・橋本）	介護福祉士国家試験対策①
	30	介護福祉士国家試験対策②（髙橋・橋本）	介護福祉士国家試験対策②

授業科目	生活支援技術Ⅳ	担当教員 実務経験	橋本亮太 有：■　　無：□	介護福祉士として特別養護老人ホームに勤務
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護過程の実践Ⅰ	担当教員	髙橋　綾		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修・3単位	単位数	
授業形態		授業回数	23回	時間数	45時間
授業目的	介護福祉士として専門的見地から介護を提供できるように、対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開をできる能力を養う。				
到達目標	本人の望む生活の実現にむけて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程、チームとしての介護過程展開能力を習得する。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座9　介護過程　第2版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	60	その他は、提出課題の内容や提出期限、授業への取り組み姿勢、グループワークや発表への積極的姿勢など総合的に評価します。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	10	
その他	30	

履修上の留意事項	講義や演習では学生参加型授業が主となります。理解できない場合は質問するなど、積極的な参加を求めます。介護サービス提供に向けて大切な授業です。授業中に課した課題を次回の授業教材として使用する場合があるので、課題の提出期限は必ず守ってください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	介護過程の基礎の振り返り	介護過程の基礎の振り返り
2	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）①	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）について
3	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）②	事例検討Ⅰ（アセスメント・個人演習）
4	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）③	事例検討Ⅰ（アセスメント・グループワーク）
5	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）④	事例検討Ⅰ（アセスメント・グループワーク）
6	介護計画立案①	介護計画立案について
7	介護計画立案②	事例検討Ⅰ（介護計画立案・個人演習）
8	介護計画立案③	事例検討Ⅰ（介護計画立案・グループワーク）
9	介護計画立案④	事例検討Ⅰ（介護計画立案・グループワーク）
10	事例検討	事例検討Ⅱ（アセスメント）
11	事例検討	事例検討Ⅱ（アセスメント）
12	事例検討	事例検討Ⅱ（介護計画立案）
13	事例検討	事例検討Ⅱ（介護計画立案）
14	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク①）
15	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク②）
16	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク③）
17	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク④）
18	介護過程とケアマネジメント①	介護過程とケアマネジメントの関係性
19	介護過程とケアマネジメント②	チームアプローチにおける介護福祉士の役割①
20	介護過程とケアマネジメント③	チームアプローチにおける介護福祉士の役割②
21	国家試験対策模擬問題①	国家試験対策模擬問題①

	22	国家試験対策模擬問題②	国家試験対策模擬問題②
	23	まとめ	介護過程の実践Ⅰまとめ

授業科目	介護過程の実践Ⅰ	担当教員 実務経験	髙橋　綾 有：■　　無：□	介護福祉士としてケアハウスに勤務
対象年次・学期	１年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	キャリアデザインⅠ	担当教員	田中　航		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修・1 単位	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	本科目は、各人が自分自身の『こうありたい』という自己イメージを明確にし、その実現のためにどうすれば良いのかを考えるとともに、4 年間を見据えた各学年における方向性を構想・実践することを目的としている。				
到達目標	①学校生活で求められる姿勢・態度を理解し、自己管理しながら学生生活を送ることができる。 ②レポートの基本的書き方を理解し作成できる。 ③次年度の課題・目標を明確にできる。				
テキスト・参考図書等					

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	レポート及び提出物（提出状況や内容)、参加姿勢等にて総合的に評価する
レポート	30	
小テスト	0	
提出物	30	
その他	40	

履修上の留意事項	各人が自分自身というものを客観視でき、自分の目標に向かい行動をコントロールできるようになることを心掛けてください。 本科目を履修することで、自分の将来についての方向性を持ち、その実現のための気づきを得ること、また有意義な学生生活を送る足がかりとなることを期待します。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション	キャリアデザインとは 学生生活（4 年間）の全体像と到達点の理解
2	学生生活について	学生生活のイメージ形成と自己管理
3	学習の準備として	レポート作成に必要な基本事項の理解
4	自己を理解する	自分を理解し、実習に向けての個人目標がたてられる
5	対人援助専門職の理解	介護福祉実習Ⅰの振り返りと今後の課題
6	先輩から学ぶ・学科内交流	学校生活の過ごし方・学習の仕方を聞き、問題解決を図る
7	相談員の職業理解と学生生活	卒業生講話から相談員の職業理解、学生生活の過ごし方の理解を図る
8	1 年間の振り返りと自己評価	1 年間を振り返り、今後の課題を明確化する（クラス目標含む）

授業科目	キャリアデザインⅠ	担当教員 実務経験	田中　航 有：■　　無：□	精神保健福祉士として就労継続支援事業所に勤務
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		